

「第5回 安川加壽子記念コンクール」

日本音楽界の若き才能を発掘・育成するピアノコンクールの開催



コンクールの由来となった故安川加壽子氏と平成18年(2006年)に開催された第5回コンクールの様子

助成団体 財団法人 日本ピアノ教育連盟

昭和59年(1984年)、ピアノを通じた日本音楽界のレベルアップと、国内的・国際的なコミュニケーション強化を目的に発足した「財団法人 日本ピアノ教育連盟」。その初代会長・故安川加壽子氏が愛したフランスのピアノ音楽を主題に、世界に通用する新進ピアニストの発掘・育成に貢献している「安川加壽子記念コンクール」への助成を行った。

安川加壽子記念コンクール

主催 財団法人 日本ピアノ教育連盟

■ 安川加壽子記念コンクールのあゆみ

第1回
優秀賞: 安間秋津さん、革島香さん、鈴木貴彦さん
平成9年(1997年)5月 予選開催
平成9年(1997年)9月 本選開催

第2回
第1位・安川賞: 柴田彩子さん
平成11年(1999年)7月 予選・本選開催
平成12年(2000年)3月 受賞記念演奏会開催

第3回
第1位・安川賞: 谿博子さん
平成13年(2001年)7月 予選・本選開催
平成14年(2002年)7月 受賞記念演奏会開催

第4回
第1位・安川賞: 前田拓郎さん
平成15年(2003年)9月 第1次予選開催
平成15年(2003年)12月 第2次予選・本選開催
平成16年(2004年)3月 表彰演奏会開催

第5回
第1位・安川賞・特別賞: 川崎翔子さん
平成17年(2005年)12月 コンクール要項発表
平成18年(2006年)7月19・20日
東京予選開催(保谷こもれびホール)
平成18年(2006年)7月21日 大阪予選開催(川西市みつなかホール)
平成18年(2006年)7月31日 本選開催(保谷こもれびホール)
平成19年(2007年)3月22日
受賞記念演奏会開催(日本大学カザルスホール)

“フランスのピアノ音楽”がテーマのユニークなコンクール

幼少期からフランスで過ごし、特にフランス音楽への造詣が深かった音楽家・故安川加壽子氏。その業績を讃えるとともに、日本におけるフランス音楽の普及と質の向上に生涯をかけて尽力した氏の意志を後世に伝えていくため、平成9年(1997年)に創設されたのが「安川加壽子記念コンクール」である。

本選は、2つの課題曲を合わせて30分以上40分以内で演奏するもので、いずれもフランスの音楽が中心。重厚なドイツ音楽が主

流になりがちな日本の音楽では極めてユニークなピアノコンクールとして、若く優秀なピアニストが広く世界の音楽に目を向けるためのきっかけにもなっている。

第1位から3位までのピアニストが表彰されるほか、特別に優秀な演奏者には「安川加壽子音楽賞」を授与。さらに、上位入賞者には、後日連盟が主催する演奏会に出演できる特典もある。

日本の音楽界の“これから”を担う新進ピアニストの登竜門へ

ほぼ隔年で開催され、平成18年(2006年)で5回目の開催となった同コンクール。今回からは、全日本社会貢献団体機構が表彰する「特別賞」が設けられ、より一層充実することとなった。回を重ねるごとに一般に広く認知され、また、参加ピアニストのレベルも向上している。

「応募してくださるピアニストのすばらしい演奏を聴いて、フランス音楽を通じてこれからの音楽界を担っていく創造性豊かなピアニス

トを発掘・育成する、というコンクールの目的の達成を実感しています」と語るのは、同コンクールの運営に携わる日本ピアノ教育連盟の副理事長である赤澤立三氏。

今後も「安川加壽子記念コンクール」は、新進ピアニストの登竜門としての役割を果たしながら、日本のピアノ界、ひいては日本の音楽界全体の発展に貢献していくことだろう。



日本ピアノ教育連盟
初代会長
安川加壽子氏

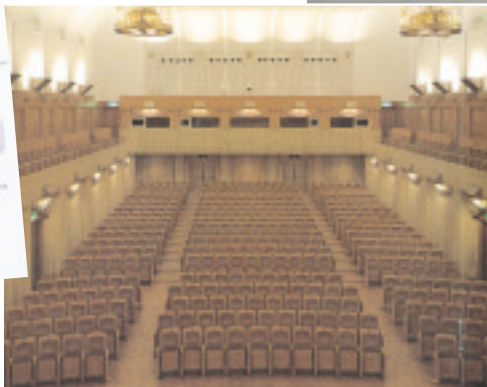
大正11年(1922年)、兵庫県生まれ。生後すぐに渡仏し、昭和7年(1932年)にパリ国立音楽院に入学、フランス音楽界の重鎮であるラザール・レヴィに師事。昭和12年(1937年)には「パリ国際婦人ピアノコンクール」第1位入賞。ヨーロッパ各地で精力的に演奏活動を行い、帰国後は演奏活動や後進の指導等に尽力。日本の音楽界に多大なる功績を残した。平成8年(1996年)没。



東京予選・本選会場となった
保谷こもれびホール



平成18年(2006年)第1位・安川加壽子音楽賞・特別賞を受賞した川崎翔子さんの記念演奏会には多くの聴衆が集まった



受賞記念演奏会の会場となった日本大学カザルスホール



コンクール本選出場者の皆さん

受賞の喜びの声



川崎 翔子さん
第5回
安川加壽子記念コンクール
第1位・安川加壽子音楽賞・
特別賞受賞

コンクールから、誇りと自信をいただきました

高校1年生のとき、「第1回 安川加壽子記念コンクール」の本選会を聴きに行ったホールで、出場者の演奏レベルの高さに圧倒されたのを今でも覚えています。そして、いつか自分もチャレンジしようと誓いました。

それから7年、第5回コンクールに参加することを決め、フランス音楽の勉強に励みました。私はフランス音楽に向かないのでは…と落ち込んだこともありましたが、ですがあるとき、お手本を弾いてくださった多美智子先生(東京芸術大学音楽学部 教授、安川加壽子氏に師事)の美しい身体のフォームと、そこから立ちのぼる美

しい旋律に、それまでの落ち込みが消え、目標とする道が開けたという感じがしました。

結果、以前から憧れていたこのコンクールで名誉ある賞をいただけたことは、これからの私にとって大きな誇りと、良い意味での自信につながるとは思います。同時に、第1位の重みや責任、重大さを感じています。この賞の名に恥じぬよう、さらに音楽と真摯に向き合い、自分の音楽をさらに深めていけるよう勉強していきたいと思っています。